

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 ここ数年の問題と比べて出題形式に大きな変化は見られない。I・IIは長文読解で英文の分量はどちらもたいてい3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致などがあり、下線部和訳がI・IIどちらかにある。大問IIIは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「現代アメリカにおける禁書」 ○ 語数：887 語 (昨年) 902 語	アメリカの建国以前から説き起こし、現代にいたるまでの「禁書」について述べた文章。同義語句のBの(f) unique については、「ほかとは異なった」というニュアンスで、1 distinct が適切。Fの和訳では、 banned books are some of the best books が「禁書の一部が良書」ではなく、「禁書が良書の一部」という関係になることをつかみたい。	標準
II	長文読解 「和食は健康的だが、地球環境に優しいとは言えない」 ○ 語数：977 語 (昨年) 998 語	和食は肉の消費が少なく、健康的だが、生産過程での温室効果ガスの排出が多く、地球環境に優しいとは言えず、改善が必要だという趣旨の文章。Cの(イ)の内容把握は、 produce に名詞で、「農産物」という意味があるのがポイント。Eの内容一致は、本文の内容と矛盾する選択肢を消去法で排除していけば、正答にたどり着きやすい。	標準
III	会話文 「ニュージーランドに行ってきた女性と友人との会話」 ○ 語数：488 語 (昨年) 551 語	ニュージーランドで親せきの家に滞在していた女性と友人との会話。Aの空所補充の選択肢には会話特有の言い回しもなく総じて取り組みやすい。Bの英訳は、「およそ二倍のお金がかかりました」を原級構文を用いて、 ~ cost me about twice as much as ... とするのがよいだろう。この cost は過去形になる。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	6	3	9	4	1	3/8		1				
II	5	3	8	3	1	3/8						
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法

同志社大学の英語で高得点をあげるには、まず確固とした長文読解力を養うことである。1学期は基本的な語彙、文法の知識を身につけながら丁寧に正確に英文を読む練習を積んでいこう。構文が複雑な箇所や読みにくい箇所は日本語に訳してみても、和訳答案作成の練習も怠らないこと。8月以降は、折に触れ、過去に出題された長文問題を1題40分で辞書を使わず解いてみることを勧める。それによって知らない単語でも前後の文脈から類推する力が養われるはずであり、これはとりわけ同志社の英語を読み解くのに不可欠な技能である。また、年間を通じて、基本的な英訳問題で高得点をあげる訓練も積んでいこう。良問ぞろいの同志社英語は君の努力を裏切ることはない。